学校法人日本工業大学創立90周年
N.I.T.90

日本工業大学 通信

NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY

第85号

編集・発行
日本工業大学
広報課
〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
☎(0480)34-4111(代)
http://www.nit.ac.jp

平成9年（1997年）4月1日発行

学習にクラブ活動に精進して 21世紀へ飛翔しよう

●新入生への訓示

学長 神馬 敬

新入生の諸君、入学おめでとう。日本工業大学を代表して心からの祝辞と歓迎の言葉を申し述べます。諸君は良い年に入学してきました。今年は、本学園の母体となった東京工科学校が明治四十年に創設されてから数えて九十年、六十周年を記念して設立された日本工業大学にとっても三十年の節目にあたります。

今年を目指して学内の美化運動、クリーン&グリーンキャンパスプランが後援会のご協力を得て数年前から継続されてきました。九十周年記念建造物のスチューデントセンターも五月に竣工予定です。この建物は半地下の遮音室が設けられて諸君が演奏活動などを行っても近隣に迷惑が掛からないように配慮されています。堀り起こした土砂と建物の重さが等しくなるように設計されているので建物自体が地面に浮かぶ船であり、斬進な耐震構造です。諸君の先輩が待ち望んでいた建物であり、後援会とそのOB、工友会、関連の企業、教職員の醵金も受けたものです。機械工学実験研究棟と機械工作センターも新しくできたばかり、有効に利用してクリーンなキャンパスを後輩に引き継ぐよう心がけて下さい。

諸君は、二十世紀末を大学で勉強し、西暦二〇〇一年、まさに二十一世紀の初めに卒業することになります。二十世紀末から二十一世紀はどういう時代なのか、一九六〇年以降の我が国の工業製品の輸出額の構成を振り返って見ますと、繊維、鉄鋼、造船、自動車、半導体等電子部品と、外貨を稼ぐ主役が時代とともに交代はしましたが、新しい工業製品を次々に開発し、得意とする製造技術で高品質の製品を迅速にかつ低コストで、量産・輸出し、経済成長を続けてきました。

しかし最近では人件費も電気代も安い外国に量産工場が移転する傾向が続き、その国の賃金が上がれば今度はもっと安い別の国に再移転するというように変化の激しい時代に入っています。さらに、少子化による人口減と高齢化社会の到来が予測されています。今後の日本は外国と一層協調、共生し、最適地生産、最適地調達を進めるとともに、国内では高度な技術を伴う付加価値の高い製品や部品の開発と生産を続けることが必要です。

厳しい時代に生きなければならぬ諸君に大学生として是非実行して欲しいことをいくつか述べておきたいと思います。

第一は、強健な体力の基礎作り。体育実技の時間もよし、運動部の部活動もよいでしょう。本学には立派な体育設備が整っています。是非、基礎体力を養って下さい。諸君がこれからの長い人生を楽しく送れるかどうかは健康にかかっているのです。本学には保健体育センターと学生相談室も設けてあります。諸君が体も心も健康に充実した学生生活を送るよう願っています。

第二は、知己をたくさん作ること。本学には教育研究に経験の深い先生方がおられ、全国各地から集まった学生が学んでいます。百余名の留学生もおります。さらに地元の宮代町の皆様も温かい心で諸君を応援して下さっています。いろいろな人々と交流を深め、趣味を養い、人間の幅を広げること、遠慮なく意見をいってもらえる友人を学生の間に見つけることです。

第三は、国際的な技術者となるための語学の学習。本学では二年前から付属の東京工業高等学校と連携してカナダ長期留学制度を実施しています。東京工高を卒業、直ちにカナダの短大に入学して七二単位余の科目を修めた後、本学に編入する制度です。最初の学生が今年度中には戻ってきて諸君の仲間入りをします。どのようなミキシング効果が生まれるか期待でいっぱいの制度です。また今年からは中国語会話の授業も始まりますので、熱心に学習して下さい。

第四は、建学の精神「体験学習」の実践。実験、実習、製図と手と体を動かして修得した知識を体系化する理論を学び、さらに実践を積んで学んだ理論を身につけることを繰り返す、これが体験学習です。各種の資格試験にトライすることは体験学習のまとめとなるでしょう。本学の卒業生が即戦力であると企業で評判が高いのは体験学習を通じて技術者としての感性を身につけているからと思います。本学の工業技術博物館は幕末から現在に至る期間、我が国で使用された外国製及び国産の工作機械が二七〇台、スイッチを入れれば動き出す動態展示されており、これらの工作機械を使って入手し難い貴重な機械の複製あるいは寄贈を受けた機械の修理も行われています。ガスタービンの羽根車が見える形の展示も珍しい。是非、時間を作って博物館に通い、一つ一つの機械の動作原理を納得するまで観察して下さい。これは機械系の学生に限らず技術開発力を養成する近道です。

諸君の先輩は、自動車部がガソリン一リットルで走る距離を競うホンダエコノパワー燃費競技大会において六年連続して首位を占める活躍をしているようにバイタリティがあります。諸君がこれらの先輩に続いて、意欲的に、学習にクラブ活動に精進され、視野を広げ、健康で実りある大学生活を送られることを願って、入学の日の私の言葉とします。

キャンパス新空間

機械工学科実験研究棟
機械工作センター

桜の開花も間近い三月十八日、機械工学科実験研究棟および機械工作センターが、めでたく予定通り竣工した。

当施設は、ここ数年来取り組まれてきたキャンパス整備の一応の仕上げとも言うべきもの。たぶん、OB諸氏や本校ゆかりの方々が来学してその様相を目の当たりにすれば、その充実ぶりに、さぞ驚きの声をあげられるに相違ない。

竣工後、二十五日より三日間、本学にて開催された《精密工学会》に参加の方々に工作センターが披露されたが、その斬新な空間構造と機器群整備の度合いに、多くの研究者から驚きの声が聞かれた。

このように、他者もうらやむような実験研究施設は、早速、新学期より使用されるが、それに見合った成果が大いに期待されるところだ。また新入生諸君は、この場で勉学できる幸せを感じ、大いに励んで頂きたい。

国家プロジェクトに参画して

独自の制御方法を追求！

横谷 真一郎
機械工学科教授

横谷 真一郎教授

鉄は国家なりと昔から言われてきたように、我々日常の生活用品から工業製品に至るまで鉄鋼製品は至る所で使用されている。まさに、最も基幹的な産業の一つである。近年発展途上国の急速な追い上げを受けながらも今日、日本は世界最大の鉄鋼輸出国、粗鋼生産国としての地位をかろうじて保持している。この度参画することになったプロジェクトは、急迫する発展途上国対策として、まねの出来ない無欠陥鉄を如何に省エネルギーで作るかを目指して、通産省主導の元に日本、フランス、スウェーデンの各主要メーカーと二名の大学教授から構成されたものである。さて、製鉄プロセスでは高炉転炉を経て生産された溶鋼は連続鋳造機において初めて固体の鉄鋼となる。このように連続鋳造機は製鉄プロセスの要であり、ここでの凝固過程の正否は鋳造ノズル及びそれによる鋳型内流動制御の如何に左右されると言っても過言ではない。つまり、如何に巧妙に鋳型内流動を制御するかにかかっている。当研究室では従来の制御方法と異なる、全く新しい制御方法を提案して各種鋳型（長方形、円形、角形各断面）に適用した。得られた結果は従来型に比較して著しく流れの制御に優れており、その制御装置も"価格破壊"、つまり、従来の一万分の一以下のオーダーのコストで可能であろうと期待されている。

現在、国益の進展にささやかながらも寄与できればと、高木茂男助教授および卒研生と心を合わせて鋭意努力をしています。当該プロジェクト参画までに多大のご支援を頂いた大川陽康理事長、ならびに神馬敬学長に深謝します。

電気電子工学科の岸教授、チェコ工科大学の客員教授に就任

一昨年の十月、チェコ工科大学（プラハ市）より副学長ユリ・テュマ博士の来学以来、本学との交流が深まりつつあるが、このほど電気電子工学科の岸敬二教授が、同大学の名誉ある客員教授に就任された。

同教授は、東芝セラミック㈱勤務時代、同大学で講義を行われたが、平成七年に本学教授就任後も、それを継続しており、今回の就任は、その功績によるもの。

これを機に、より一層の交流促進が期待される。

岸 敬二教授

TOSHIBA

Windows95搭載、
世界最小・最軽量
ミニノートパソコン

ミニノートパソコン
Libretto30
リブレット

株式会社 東芝 東京都港区芝浦 1-1-1 東芝ビルディング Tel 03-3457-3773

国際舞台で活躍できる「実力」と「センス」を

理事長――大川　陽康

新入生諸君、まことにおめでとうございます。諸君は、今年《学園創立九十周年》を迎えた記念すべき年度に入学され、さらには四年後の西暦二千一年という、まさに歴史的な時代変化の節目に、その多くが社会の第一線に躍り出られる幸運を背負っておられます。

そこで私は、諸君がそういう幸運なる星のもとに巡り合わせたことにちなんで、つぎの二つの点を強調しておきたいと思います。

まず第一は、学園創立九十周年に関連してのことですが、本学園が明治四十年（一九〇七）に「東京工科学校」として産声をあげて以来、綿々として培ってきたところの伝統。つまり「まずモノや現象に学べ」という実学の精神を、諸君もまたよく噛みしめて勉強に勤しんでいただきたい、という願いであります。

誤解を招じかねないので申し添えておけば、「モノや現象に学べ」と言っても、大学で勉学する以上、当然ながら、その理論的裏付けをも学び取らなければなりません。したがって、ことの意味を正確に言うなら、実学とは、以上に申し述べた二つがセットになった学びの在り方、ということに他なりません。

ちなみに、そういう行き方の正しさは、例えば、かつて本学園出身者で松下電器産業の技術最高顧問を務められた中尾哲二郎氏や本田技研工業の役員として活躍された馬場利次氏をはじめ、いま現役のエンジニアとして腕をふるっておられる多くの諸先輩たちの業績が、如実に物語っております。諸君も新聞やテレビで伝え聞いておられるように、昨今の厳しい状況下では、ことのほか実力のあるなしが問われます。しかし恐れることはありません。実学の姿勢と努力を堅持しさえすれば、自ずと実力は備わります。

さて第二点は、諸君が社会に出る二十一世紀のわが国を取り巻く状況は、より国際化が進展。好むと好まざるとにかかわらず「国際感覚」なき者の活動の舞台範囲は、たいへん狭まれてしまうであろう、ということであります。

それは昨今の急速な経済活動のボーダレス化は無論、インターネットの普及による地球規模での情報交流などを見やれば、容易に想像できることでしょう。ですから、もう国内のみに眼を向けている時代ではありません。

ご存じのように、わが日本は、二十世紀の後半、非常な努力を傾けて、世界有数の豊かな社会を築き上げました。けれども身の回りにモノがあふれ、しかも資源の有限性がうんぬんされる昨今、資源輸入国であるわが国はもう従前のような考え方による取り組み方では、新たな活路は見出せません。ゆえに、二十一世紀を担う諸君がなすべきことがらは、大学で身につけた高度な技術を、例えばそれを最も必要とする開発途上国の支援に傾ける気概と異文化理解の知識を持つことです。

ご承知のように、いまアジア諸国の発展には、目覚ましいものがありますけれども、こと技術面においては、まだまだ日本のそれが強く求められております。さいわい、わが日本工業大学には、多くのアジア諸国からの留学生がおります。したがって、彼らと親しく交われば、国際感覚も自然に身に付きます。ですから、どうかこのよき環境を、積極的に活かしてください。

大学というところは、ただ与えられたものを履修するのではなく、主体的に物事を学びとって行く場です。入学に際し、どうかその点を、しっかりと胸に刻んでおいて下さい。

創造力豊かな人材に

機械工学科主任
柳澤　章教授

入学おめでとう。諸君がこれから日本工業大学においてどのように成長していくのかを楽しみにしています。これからの日本で、理工系の人間に最も求められているのは創造性だと言われています。技術立国日本が、世界でそのリーダーシップを維持していくためには、諸君が創造性に溢れた人材に育っていくことが大いに期待されているのです。それでは創造力を養うにはどの様な事が必要でしょうか。文部省のある報告によると、自らの意思と発想で何かを創造する際には、創造しようという興味と意志、体系化された知識の取得、着想や構想力、着想や構想を実現するための方法や手段の考究が必要であり、とくに、科学技術の分野においては、過去の知識や技術の蓄積を基礎として創造がなされると言っています。当然君達は、当面の間、この体系的な知識の獲得に励まされるわけですが、それと同時に諸君の興味や着想力を涵養して下さい。夢を具体化する工学の楽しさを共に味わいたいものです。

これからの四年間を大切に

電気電子工学科主任
大久保勝弘教授

入学おめでとうございます。今日から、いよいよ君達の大学生活が始まるわけですが、この四年間をどのように過ごそうと思っていますか。

私は、これまでに多くの学生諸君が、ういういしい新入生として入学し、四年間で見違えるように立派に成長して、社会へ巣立っていくのを見届けてきました。

大学における四年間は、青年が社会人となる直前の、人生で最も成長著しい重要な時期です。好むと好まざるとにかかわらず、この時期の過ごし方が各人の将来に深くかかわってくることになります。ですから、どうか、これからの四年間を大切にして下さい。また、大学時代に生涯のよい友人を得たと言っている人も大勢います。しかし、よい友人を得るためには、先ず君達自身が、よい友人にふさわしいか、どうかが前提条件です。青年として、学生として、しっかりと人間性を養い、他から信頼される若者であることなどが必要であると思われます。

この四年間に、君達が有意義な学生生活を送り、たくましく成長することを心から願っています。

大学の勉強はオーダーメイド

建築学科主任
桑原文夫教授

大学を卒業するときに四年間の学習記録が残りますが、自分と全く同じ記録を残す人は他には誰もいないと言って良いでしょう。高等学校までと違って、大学に入ったとたんに急に自由度が増えます。しかも本学の建築学科では、必修科目は卒業計画の一科目だけです。

これだけの自由を与えているということは、君たちを信頼しているからなのです。大学は勉強したい人が勉強するためにやってくるところです。ごく当り前のことです。君たち百人の顔が違うように、勉強の仕方も百通りあって良いと考えています。君たちがみんな勉強をしたいということをお手伝いをするのが我々教員の仕事です。自分の体にあったオーダーメイドの勉強の方向を作り上げてください。

我々が提供できる授業科目の数は限りがあるけれども、その組み合わせの数はものすごい数になります。提供されている科目全てを履修することは無理でしょうし、むしろそれを君たちに勧めてはいません。

大学生活を２倍楽しもう！

システム工学科主任
原　利次教授

入学おめでとうございます。いよいよこれから大学の四年間は長いようで短く、考えようによっては短いようで長い期間です。

人生の一番大切な時を、皆さんのように大学で過ごすか、皆さんの仲間達のように社会に出てバリバリ働くか、どちらも大事なそして貴重なことです。皆さんに折角与えられた、貴重な大学生活の機会を是非有効に使って下さい。

大学にはいろいろな設備と、いろいろな先生と、いろいろな仲間がいます。授業に出ることは勿論大切ですが、それだけは大学生活の半分しか体験していません。後の半分が失われています。

サークルに入るでもよし、下宿の仲間と飲みに行くでもよし、同郷の先輩を訪ねるでもよし、クラスの友達と議論するでもよし、何らかの形でいろいろな人と交わって下さい。揉まれてこそそのなかから自主性が育つのです。そうしてこそ大学生活を二倍有意義に、楽しくすることが出来ます。

決定プロセスについて

情報工学科主任
松田郁夫教授

諸君の入学を心から祝福し、歓迎いたします。諸君はこれまでも物事を決定する方法について、いろいろと学んで来たことと思う。これまでの学校での課題の多くは、必ず、一つの正解がある場合が多かったことと思う。大学や社会での課題は、正解は一つとは限らず、また正解が無い場合もある。いや、むしろこのような場合の方が一般的である。

諸君が、よく知っている決定プロセスは、いわゆる「解析プロセス」であろう。これは、客観的情報に基づいて、目的設定から必然的に導き出された手順を実行する過程である。このプロセスと対照的なのが「開取プロセス」である。これは、開取法開（ききとりほうもん）と呼ばれ、人の意見や説明を開取し総合して自分の意見として、発表したり、説明したりするものである。もともと僧侶の世界で使われていたものである。これらは、双互に補完的な発想法であり、問題によっては組み合わせることも必要になる。このような発想法を身につけ、実問題に取り組める技術者になってほしい。

好奇心と応用の心を

共通系主任
船橋昭一教授

ヘールボップすい星が四千年をかけて再び太陽に近づいています。春、世界の話題のひとつです。ここ日工大も千余名の若人を迎えキャンパスが輝く時です。全ての新入生諸君に歓迎の拍手を送ります。話題のすい星はいつの日かまた姿を見せます。君達の人生の軌道は回帰しない一本道です。日工大での学習は工学、それぞれの専門は異なるかも知れません。けれどもいつも心にとめておいてほしいものがあります。それは好奇心と応用の心です。たとえば、日常的なペットボトル、中味が無くなればただのごみでは何も生まれない。四国のある事業家が紙を作って工業化しました。この場合の好奇心は紙を作ることです。ペットボトルを砕き、綿アメを作る要領でほぐし、さらに日本の伝統の技術を応用したのです。和紙の紙すきの技術を生かしました。厚さ五ミリ程度広げたペットボトルの綿アメにノズルから出る水をかける。この力で紙が立派にできたのです。新製品として家庭や職場普及しました。成功へのヒントは待つものではなく、つかむものです。

子供たちに伝えたいものがあります。
地球とともに、未来へ・・・
株式会社大林組
OBAYASHI　東京本社／〒101　東京都千代田区神田司町２－３

入学おめでとう

機械工学科

電気電子工学科

HoHo!
素敵な情報システムを…JIP

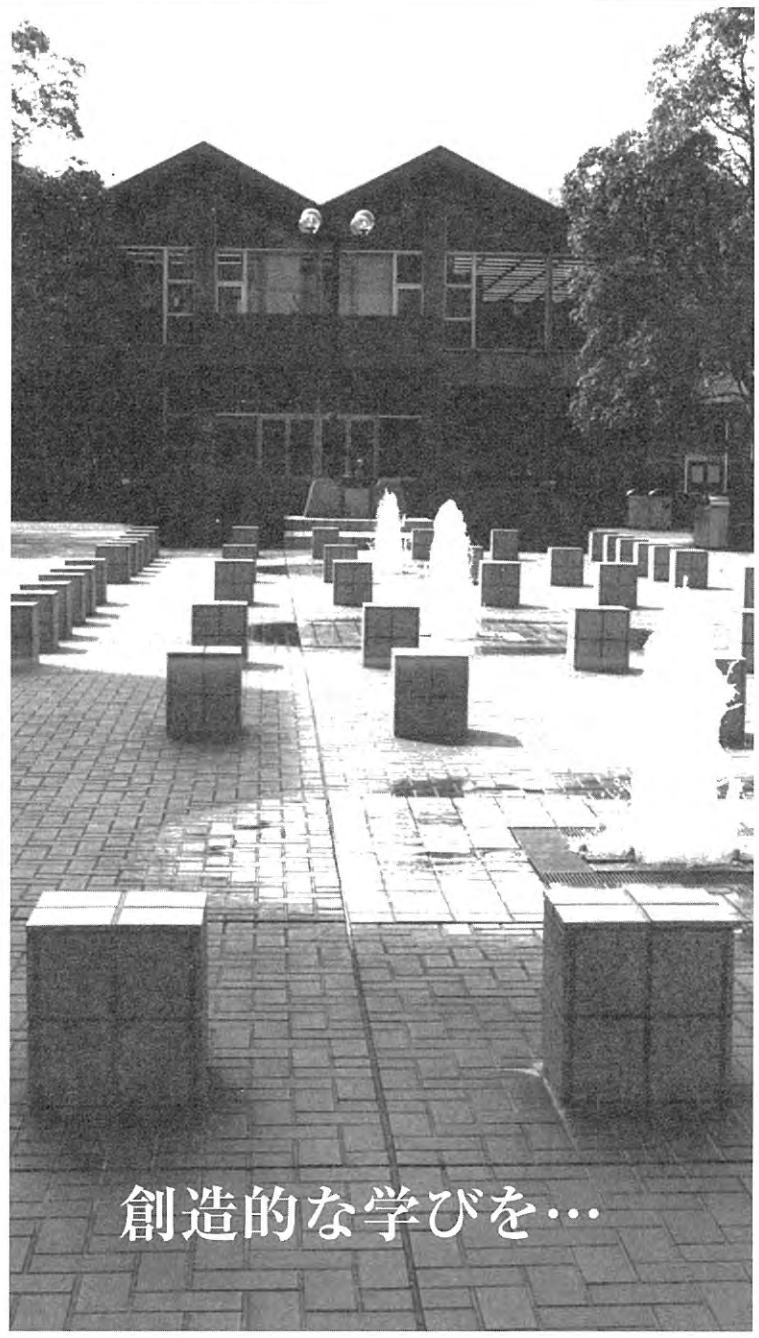
インターネットやマルチメディアなど
時間と地域を超えた情報システムの
活用と情報の共有化が、
社会や経済を大きく変えていくことでしょう。
時代に先駆け、常に情報化社会を
リードしてきたJIPは、
先進的な情報技術と豊富な業務知識で、
情報システムに関する様々な問題を解決すべく、
お客様にご満足いただける
システムコンサルティングサービスを
提供いたします。

＊JIPは、日本電子計算㈱の略称です。

JIPの事業
■システムインテグレーション事業
コンサルティング、情報環境構築、ソフトウエア開発など
［JIPは通産省認定システムインテグレーション企業です。］
■システムマネージメント事業
アウトソーシング、システム保守、VAN、DBサービスなど
［JIPは通産省認定特定システムオペレーション企業です。］

日本電子計算株式会社
〒135 東京都江東区東陽2-4-24(SASセンタ)
お問い合せ先 情報機器事業部 ☎03-5690-3212
金融証券サービスセンタ ☎03-3668-6173
大 阪☎ 06-448-6021　名古屋☎052-201-3141　福 岡☎092-441-0771
新 潟☎025-245-5123　広 島☎082-241-3255　札 幌☎01)-221-3763
仙 台☎022-266-3441

建築学科



システム工学科

情報工学科

大学院　工学研究科

博士前期課程

●機械工学専攻
●電気工学専攻
●建築学専攻
●システム工学専攻

博士後期課程

●機械工学専攻
●電気工学専攻
●システム工学専攻

★セミナー参加者募集!!
英会話&異文化体験

英会話カナダ特別セミナー

国際化時代の中で、この先、企業で働くにせよ、また教育研究機関の仕事に従事するにせよ、その前提条件として、英会話ができなければ十分な活動は行えない。

そのため本学では、カナダの名門ブリティッシュ・コロンビア大学（以下UBCと略）と提携。毎年、夏休み期間を利用して《英会話カナダ特別セミナー》を行っている。

ちなみにUBCは、十二の学部を有する総合大学で、緑ゆたかな美しいキャンパスは、さながら一大公園の趣だ。セミナーの内容は、午前中の三時間をUBCにおいて、TESLの資格を持つ優秀な先生から十人程度のグループ編成で授業。午後は、それぞれバンクーバー市内のホームステイ先で、暮らしに密着した会話を学ぶシステム。

無論それだけではない。時に、先生の案内で市内の参観に出掛けたり、またステイ先の家族ともども、郊外の行楽地などへレクリエーションに行くこともある。したがって、期間内はまったくの〝英会話づけ〟。そのため机上で学ぶのとは違って、生きた英会話が自ずと身に付こうというものである。なお当研修は、正規の英語授業科目の一環。したがって、参加者には二単位が与えられる。

付言しておけば、研修期間内には、美しいロッキー山麓での豪快な渓流下りなど、楽しいアクティビィティーも用意されている。奮ってご参加頂きたい。

◆期間＝八月十六日～九月十一日（二十七日間）
◆費用＝四十九万八千円
※詳細は教務課まで。

温もりのある家にホームスティ中の学生たち

名門ブリティッシュ・コロンビア大学のエンブレム

ヨーロッパ研修

大学で専攻のカリキュラムを履修することは当然ながら、もう一つ幅広い教養や「国際感覚」を身につけることも重要だ。

そんな目的で行っているのが、このヨーロッパ研修だが、これまで参加した多くの先輩たちが、その効用を大きく認めている。

言うまでもなく、近代科学技術は、ヨーロッパが誕生の地。また、広く学問というフレームをとっても世界に大きな影響を及ぼした当地の歴史風土や文化の形を身体で知ることは、たいへん重要な意味を持つ。

よく「諸外国のことはテレビや雑誌で見ているから、おおかた解っている」と言う人物がいる。しかし、それは大きな間違い。やはり「百聞は一見にしかず」のたとえのように、メディアを介した体験では、真にその本質を知ることなどは出来はしない。

とにかく、この研修のいいところは、歴史的・文化的に必見の七か国、八都市を経巡り、貴重な異文化体験を可能ならしめること。とりわけ建築学を専攻する諸君にとって、その空間体験は、計り知れない財産になることは、疑いない。

なおこのセミナーには、教員および事務職員が責任者として同行する。

【研修概要】
◆期間＝八月二十七日～九月十三日（十八日間）
◆費用＝五十四万八千円
◆経路＝成田→ロンドン→カイロ→ローマ→ヴェネツィア→ミュンヘン→チューリッヒ→バルセロナ→パリ
◆利用予定航空会社＝英国航空・エールフランス・日本航空（日本出発時）

なお、参加費用に関しては、六回～三十六回の分割払い《スチューデントローン》の利用も可能。したがって、奮ってご参加頂きたい。

※申し込みに関する詳しい内容は、学生課に問い合わせのこと。

ロンドンブリッジにて

就職活動「前倒し」にどう対処するか？

―４年生への緊急アドバイス―

今年度から就職協定が廃止となり、学生の就職活動や企業の採用活動が自由化されることになった。

また、企業の採用形態も昨年あたりから変化をみせ始め春、秋、通年と様々な組み合せにより人材を確保している。これは、企業が人物をじっくり見て採用を決めようとしている現れである。これにより、当然就職活動は長期化の様相をおびると思われる。それを乗り切り就職戦線をどう勝抜くか、次の就職指導委員の先生方に助言を頂いたので参考にして欲しい。（就職課）

自己分析と会社分析を

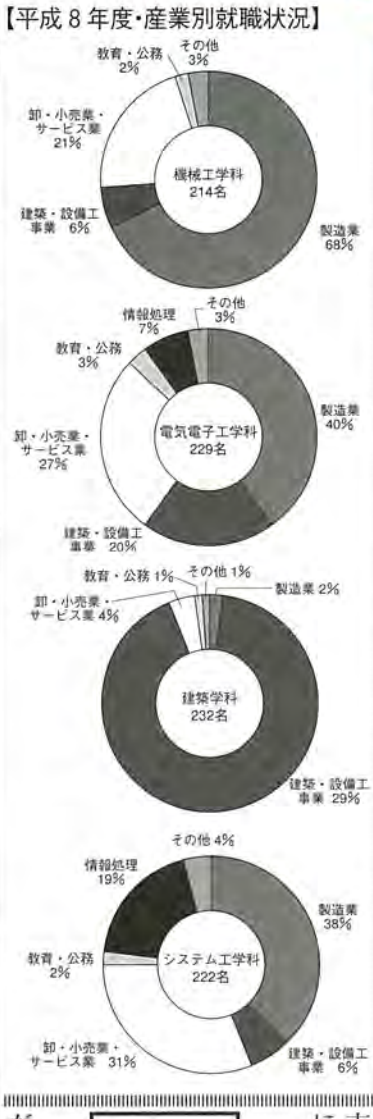
機械工学科　横谷真一郎教授

これから就職活動に当たって色々悩み戸惑うこともあろうと思われる。

不景気、先の見通しもはっきりしない閉塞状態、年功序列型雇用関係の崩壊の兆し、一部会社活動の無国境化、インターネットによる情報の急速な無国境化、就職協定の廃止、採用時期の流動化、各種規制緩和等、マクロ的には定常的社会から非定常的社会に移行しつつある。つまり、これからは真価を試される社会、何が出来るかを問われる社会になりつつあるようである。この変転極まりない社会に対応するには、日頃から切磋琢磨して基礎能力を養い社会の変化に順応出来る能力を養うことである。これらの社会的背景の中で諸君は厳しい就職戦線に直面しようとしている。この人生における最初の関門突破に当たって自分の過去、現在、未来を良く分析することである。そうすれば自ずから自分の好きなこと、得意なこと、不得意なことが分かり自分のやれそうな業種、職種が見え、やって行けそうな会社も見えて来よう。そうと決まれば積極的に就職戦線に参加することである。「百聞は一見にしかず」まず行動をおこすことである。具体的には会社の求人票で労働条件、待遇等を調査し、更に会社を訪問して説明会に出席し求人票では分からない会社の雰囲気、社風を知り、直接先輩に会ったり、人事の担当者に会って会社の一端を知ることである。これらの体験を通して一段と社会に対する視野も広がり自分の置かれた立場も一層明確に理解できるであろう。それによって本当に自分に適した会社はどれなのか見えて来よう。すなわち、良く自己分析と会社分析をしておけば入社試験の面接で「志望動機、得意な点、卒研、希望する職種・・・」の質問等に対して堂々と答えられるわけである。

就職戦線の勝者は明るく日頃から努力し卒研にも精を出し積極性があり、己を知り会社を良く知った学生であると言える。

【平成８年度・産業別就職状況】



面接試験に臨んで

電気電子工学科　渡辺康夫教授

企業面接に参考になりそうな点を紹介する。

一《企業の立場》企業は良質で安い製品、サービスを社会に提供することをモットーに、研究、改良、製造、販売活動を行う。環境や福祉等への社会的責任もある。従って諸君には、企業の仕事を通じて社会に貢献することが生きがいであり、楽しみであるとの回答が期待される。社会人としての自覚も求められる。

二《志望動機》志望動機では、企業の仕事への価値感、意欲、積極性が評価される。企業の立場に、自分の特技を当てはめて答える。

三《学生活動》指導力と協調性が評価される。協調性とは意見の異なる者とも協調して仕事ができるかである。「上級生と意見が合わなかった時、同級生と相談し再び上級生と話した。それでも駄目だった時は従った」、が適当であろう。

四《卒業研究》指導教員の専門と学術活動等を確認しておく。卒業研究テーマではいきなり論点に行かず、まず何の分野で何を目指しているかを平易に説明する。論理性、説得力が評価されるので、研究分野が理解されれば、六、七割は成功である。

五《専門知識》専門知識の問題では、センスと誠実、冷静、明朗さが評価される。聞き上手が肝要。質問の意味を解せず、焦ったうえ方向違いの回答は致命傷。質問を再確認すること。「分かりません」は憶せずに。習ったことは（時にはなくても）、「学びましたが分かりません。もう一度調べればお答えできると思います」あたりが穏当である。

六《学生側の質問》質問は聞かれる場合に備え、会社案内をよく読み、業務内容等を数問用意しておく。面接の印象は身だしなみ、態度、話し方如何である。健闘を祈る。

志を立て企業を選ぶ

建築学科　渡辺勝彦教授

専門を学んできた諸君には、志があるだろう。しばらく曖昧にしていたら、今はまず自ら問い直したい。道を切り開いてゆく、ちょっと覚悟をする時である。

希望を持ち続ければ、今後も道は案外、開けるものである。観念的ではあるが、そう信じるしかあるまい。自分が将来に向かって何をどうしようとするのか、多少なりともはっきりさせることを勧める。

大学と企業との、いわゆる就職協定がなくなった。早くも求人が始まった。新聞・テレビも、早い立ち上がりを報道している。

学年末以来ゆっくりしていた諸君も、そわそわしだしたであろう。あわててむやみに走って得られるのは失敗。しかし、ゆっくり構えてはいられない。

ことは、思った通りにばかりはいかない。でも、意志が弱いと、希望した通りにはほとんどゆかない。

自分の道を見つけることである（と、先輩が教えてくれた）。独自な道に価値がある。これは、友人に聞いても、相談しても時間の無駄。自分に聞こう、自分でしっかり見定めよう。

同時に、就職先を探す。確かな情報を集めよ。会社案内を読んだり、人に聞いたり。確かな情報こそ貴重である。原則は、手間を惜しまず、自分より詳しい人に聞くこと。君の隣の友人に聞いても、これも多くは無駄。彼も、君とそう変わらない。

面倒でも、先輩に聞くしかない。希望する会社に先輩がいれば、往復葉書でアポを取って聞くと、かなり本当のことを教えてくれるはず。日頃敬遠している父兄、親戚、先生も専門家として君たちよりは会社のことを知っている。

何よりも就職課に足を運んでください。時間は限られているから、遠回りばかりはしていられない。さあ、始めよう。

印象深い自己PRについて

システム工学科　鈴木敏正教授

自己PRは採用側担当者が最も注目している部分です。自分という素材がいかに企業の役に立つかを最大限にアピールしなければなりません。

書類で提出する場合も、面接の場合も、「協調性に富む」「明朗活発」などのありきたりの言葉や格好いいフレーズを使わずに、自分の持つ特性を自分の言葉で書いたり言ったりします。そうすれば、それがどんなことであれ「自分らしい」表現になるはずです。そして、自分という人間をはっきり主張できるでしょう。自分がどんな人間かは、自分からは見えにくいものです。よくわからずに困ったならば家族や友人などまわりの人に、彼らから見たあなたの長所と短所の両方を書いてもらうのも一つの方法です。自分が他の人にはどのように映っているのかが分かって、客観的に自分をとらえることができます。新しい自分が発見できるかもしれません。

志望動機と自己PRを簡潔にまとめた原稿を用意して、本番のつもりで何度も声をだして練習してみましょう。原稿を見ないで、自分の言葉で、滑らかに言えれば、意欲が相手側に伝わります。

また、卒業研究（計画）の内容は、自信をもって説明できるようにしておかなければなりません。三年生の内でも、研究室が決まっていれば「まだ始まっていません」ではだめです。〝にわか〟でもよいから勉強して、いかにも自信を持っていると見えるように説明します。突っ込まれたらどうしよう、という心配は無用です。「これから勉強します」で良いのです。それが卒業研究（計画）というものなのです。早く行動し、早くゴールし、良い卒研を完成させてください。

◆就職活動に臨む10のポイント

①まず自分の目指す企業や職種を明確に定める
②とにかく足繁く就職課にかよって、情報収集を行う
③履歴書は枠内に、正確かつ丁寧な字で表記する
④先輩や知人を訪ねての情報収集も、積極的に行う
⑤インターネットやパソコン通信を有効利用する
⑥会社訪問の際は、清潔な身なりで出掛ける
⑦面接では、聞かれたことに対して明確に応答する
⑧知らないことには、はっきり「知りません」「解りません」と答え、できれば「これから勉強します」と補足する
⑨自分の個性や特技を積極的にPRする
⑩専門や卒業研究に関しては、自信をもって説明する

学園創立九十周年に寄せて

学園の古木「ヒマラヤ杉」物語

大学の正門を入った左手、開校に多大なる功績を残された窪田宗英先生（第三代理事長）の胸像の背後に、すくと立つ風格漂う一本の「ヒマラヤ杉」の存在に、お気づきだろうか……。

いまでは、一部の教職員と同窓生しか知る由もないが、実はこの樹は、今年めでたく《創立九十周年》を迎えた本学園の歴史の大半を、そこはかとなく目撃してきた貴重な存在なのである。

＊　＊　＊

明治四十年（一九〇七）、本学園は、東京市小石川水道端二丁目六三番地・六四番地（現・文京区小日向一丁目一三番地）に「東京工科学校」として誕生。翌年、校舎の消失で、神田猿楽町、麹町富士見町の仮校舎。さらに翌々年には飯田町へ移転し、明治四十四年八月、いま学士会館が建っている神田錦町（現・千代田区神田錦町三丁目二四番地）の明治大学の分校を譲り受けて本校舎とし、学則定員二千名（昼夜）の本格的な学園に生まれ変わった。

が、大正二年（一九一三）二月二十日、「神田大火」のため全校舎を類焼し、同六月、再建校舎が落成。そして昭和五年（一九三〇）に鉄筋コンクリート五階建ての堂々たる校舎が落成。昭和二十年二月二十五日に太平洋戦争の戦禍で校舎の大半を消失したため、同二十三年四月（一九四八）、新たに「東京工業高等学校」として、目黒区駒場七五一番地で再スタートするまで、この地で学園活動がつづいた。

大川理事長が先輩たちから伝え聞いたところによれば、くだんの「ヒマラヤ杉」が植えられたのは、昭和五年に本格的な校舎が完成をみた時だった、という。

昭和十七年に撮影された写真をみると、ロマネスク風の玄関の両側に、それぞれ三本ずつの杉が居並んでいる。いずれも五、六メートルぐらいの樹高だが、当初植えられた時は、たぶん、その三分の二くらいであったろう。

それでは新校舎の落成に当たって、なぜ「ヒマラヤ杉」が植えられたのか？　残念ながら、いまとなっては、もうその理由を明かすすべはないが、思うに、あの偉容を誇るヒマラヤ山脈のように、高く大きな〝学園山脈〟を築き上げたいとの願いを込めてのことだったに相違ない。

さて、その樹にちなんで、大川理事長が同窓会報（昭和五十六年十月二十日号）に、こんなエピソードを記されている。

「神田時代は、旧制の工業高校の頃で、毎朝、登校して来る生徒は五階鉄筋校舎の西側の玄関が専用入口になっていたので、そこから敬礼をしながら入ったものです。その入り口には上級生の風紀委員が並んでいて下級生の服装に乱れはないかと目を光らせていたものでした。始業ベルが鳴ると玄関は閉められ南側の正面玄関に風紀委員は移動し、遅刻した生徒はそこで生徒証を取り上げられて入ってきなければならなかった。従って正面玄関は余り用のない処でした。その正面玄関に、「ヒマラヤ杉」が植えられてあったので遅刻の悲哀を感じた生徒達を毎日見ていたことでしょう」

ヒマラヤ杉にとって、最大の受難は、戦災で校舎の一、二階を焼失した時だった。が、猛火の中で奇跡的に生き残り、学園の駒場移転で、木造二階建て校舎正面玄関の両側に、移植された。

ちなみに当時の駒場は、井の頭線を挟んだ向こう側に「一高」（現東京大学教養学部）があり、周囲には、まだ畑なども多く「教室の外には時折、小綬鶏がヨチヨチ歩いている」（理事長）光景が垣間見える、たいへんのどかな土地柄だった。

しかし、地質は関東ローム層で「ヒマラヤ杉」の生育には適していなかったのか、神田時代に比べて、さしたる成長は見られなかった。そして昭和三十三年の学園創立五十周年記念事業として、現在の高校の鉄筋コンクリート三階建て校舎の建設が着手された頃には、いつしか校舎裏手の職員住宅の庭に移植され、その存在も忘れられがちだった。が、昭和四十二年（一九六七）、学園創立六十周年を節目に日本工業大学がこの宮代の地に開学。同時に、かの「ヒマラヤ杉」の一本が移植され、大学の発展と見合う伸びやかな成育ぶりをみせている。

六十有余年にわたって学園の歴史を見つめてきたこの樹の無言の教えに、時にわれわれは、心を新たにして耳を傾けたいものだ。

（S）

STUDENT face '97

21

セナイラタナ・H・アジス・スサンタ君
（システム工学科1年）

■博士号を取得して
故郷の大学で教えたい!!

サナイラタナ・H・アジス・スサンタ君はスリランカからやってきた——。

故国の大学が民族紛争で閉鎖し、外国への留学を考えねばならなくなった時、日本を選んだ。小さな頃から中国のことわざの本に親しむなど、極東世界に憧れていたからだ。

公務員を退職した父親が農業経営の会社を興していたので、それを手伝うべく農業を勉強するつもりで来日した。だが、日本語がまったく話せなかったため、まず東京の日本語学校に入学した。

日本に来た当初は、やはり言葉の問題でかなり苦労した。特に日本語の漢字には音読み、訓読みの区別があり、本当に大変だった。しかし、日本語学校で二年間一生懸命勉強したおかげで、なんとか話せるようになった。

だが、会話には不自由しなくなった今でも「NOと言えない日本人」には困った、と感じることがある。

アルバイトの面接担当者には「あとで連絡しますから」、友人を誘った時には「今日は忙しいから、また今度にしましょう」と言われた。どちらも長い間待っていたのだが、「あとで」も「今度」もいまだに来ていない。

「言葉」の他には「食べ物」と「宗教」にカルチャーショックを受けた。

日本語の漢字の難しさはもちろんだが、日本の食べ物にも最初は違和感を覚えた。スリランカでは何でもカレー味なので、日本の食べ物には味がないような気がした。

また、日本もスリランカと同じく仏教国と思っていたため、あんなにたくさんの人がいる東京で、托鉢している僧侶を一人も見ないのは不思議だった。

だが、それらも時間とともに慣れてきた。あれほど難しいと思っていた漢字も、今では面白いと思えるようになったし、日本の食べ物でも「てんぷら」と「松屋の牛どん」は大好きになった。

日本語学校卒業後は専門学校に入り、コンピュータを勉強した。そのころには当初の農業志望が工学志望に変化しつつあった。そのため、大学受験の時には農業大学と本学とを受験し、両方に合格したが、進学先には本学を選んだ。

大学に入ってからは「キャンパスライフを楽しく」をモットーに生活している。

本学での不満は中国、韓国、台湾など国別の留学生会はあるのに、国籍を超えた留学生会がないことだ。

すべての国の留学生が参加できるような留学生会を作り、これから日本にやってくる留学生の後輩たちにも「キャンパスライフを楽しく」を広めたいと思っている。

学部を卒業したら大学院に進学し、博士号を取得したいと考えている。子供の頃から「PhD.」の三文字に憧れていた。農業を志望していたころも、工学を勉強している今でもそれは変わらない。学位を取得できたら故国の大学で教鞭を取るのが将来の夢である。

＊＊＊

日本に来てもう五年もたつのに、スサンタ君の目は日本に来たばかりであるかのようにキラキラと輝いている。彼には日本の学生が忘れてしまった「何か」を感じさせるものがある。

その純粋な心と、本学で学んだ技術とを持ち帰って、故国のスリランカの発展に大いに貢献してほしいものだ。

（鰹）

◆工学部：新入生オリエンテーション

4/4(金) 10:30～	入学式［体育館］
4/5(土) 10:00～	共通系オリエンテーション［体育館］（数学／物理／英語を除く）
13:00～	共通系（数学／物理／英語）オリエンテーション 機→［401］ 電→［3-325］ 建→［2-375］ シ→［402］ 情→［103B］
14:30～	各専門学科オリエンテーション ※場所は上記に同じ
4/7(月) 9:20～	学生部オリエンテーション
4/8(火)	授業開始

◆大学院：博士前期課程および後期課程

4/5(土) 14:00～15:00	全体オリエンテーション（履修申告要旨、時間割等配布）［情報工学科棟5階会議室］
15:30～	＊機械工学専攻オリエンテーション［3-225］ ＊電気工学専攻オリエンテーション［3-224］ ＊建築学専攻オリエンテーション［建築学科棟101］ ＊システム工学専攻オリエンテーション［4号館3階48研］ ※博士後期課程入学者については指導教授の指示に従うこと。
4/8(火)	授業開始

◆ 地中送配電線工事
◆ 屋内配線工事
◆ 変電所設備工事
◆ 電気土木工事
SED 三英電業株式会社
代表取締役社長　大場健司
本　社　〒141 東京都品川区大崎1—19—20
☎NTT　03（3495）8111（大代表）
☎TTNET 03（4531）8111（代表）

人の呼吸にもっと優しく
●空気調和・給排水衛生設備
TAISEI ONCHO 大成温調株式会社
〒140　東京都品川区大井1丁目47番地1号
TEL 03-5742-7301（代）
支店・営業所　全国32ケ所

●留学生別科日本語研修課程修了式

学部へ十一名、大学院へ二名が進学

上＝厳粛に挙行された式典のもよう。
左＝修了生を代表して謝辞を述べる　君

少しばかり報告が遅れたが、三月一日午後一時より、第四回留学生別科の修了式が、三号館１２６教室で行われた。

式典は、まず神馬学長より三十三名の修了証書を授与。そして山岸嵩教授からの記念品の贈呈があり、次いで学長および理事長の式辞、留学生代表の　君（中国）が謝辞を述べ、滞りなく終了した。

なお式典終了後は、記念撮影。そして指導教員や来賓者を交えて和やかに祝賀会が催され、修了生各自が身につけた日本語でスピーチし、その成果を披露した。

ちなみに修了生の内、学部進学者は九名。また大学院へは二名が進学することになった。

数ある言葉の中でも難しいと言われる日本語の基礎を、たった一年間で修得した留学生たちの努力に、深く敬意を表したい。

近事片々

春霞に煙る島々の間を航行する連絡船の波頭が瀬戸内の陽光を浴びて淡く輝いている今。伊予松山は春満開です。

私は今でも時間がゆっくりと流れている感じがする松山を昭和四六年の春旅立ち埼玉へ向かいました。広大な関東ローム層の大地は雨の日には水はけが悪く構内の随所に水溜まりができ靴が泥だらけになったのを覚えています。また、入学してみると関西方面の出身者がほんの僅かで、喧嘩をしているような関東の言葉には慣れるまでかなり時間を要しました。

しばらくは、大学とアルバイトの単調な生活が続きましたが、再三の島崎氏、加藤氏（バレーボール部の先輩）の強い勧誘によりいつしかバレーボール部に入部していました。その頃のバレーボール部は関東大学リーグの下位に低迷し何時も苦戦を強いられていました。しかし、竹内教授（現図書館長）が部長に市川教務課長（元教務課参与）が監督に就任すると猛練習の成果がみのり頭角を現し七部リーグまで急上昇しました。私が卒業します。勝つための厳しい指導は言うに及ばずバレーボールを通じての人間形成を基本姿勢に温かく導いて頂いたことに感謝しております。その市川監督も三月で定年ということをお聞きして寂しい気持ちでいっぱいです。

瀬教授（現教務部長）が部長就任後も快進撃は続き最終的には三部リーグまで昇格したことを聞いております。

市川監督のもと十五年余りで三部まで昇格した実績はバレーボール部の伝統として大変重みのあるものだと思っておりま

OB便り

故郷で自社製品の販売に奔走…

中村　康則

電気工学科（第５期生）

ＦＡシステムエンジニアリング社長

最終学年の卒業研究では大久保教授にお世話になり心配をかけどうしのまま卒業しました。私は練習や体育会会長としての仕事などで度々研究室を空けることが多かったので、他の学生の手前小言の一つも言いたい時があったでしょうが黙認してくださいました。そのお陰で昭和五十年の春、無事に卒業することができました。

その後私はプラント設計の企業に就職し四国と東京を往復するという慌ただしい生活を送った後、松山に戻りＦＡシステムエンジニアリングという会社を設立し自社製品の販売促進のために奔走しています。ＦＡ分野のソフト開発がメインですが、今年はマルチメディア分野のパッケージソフトをこの三月に発売すべくその準備に追われています。マルチメディアを体験できる面白いソフトですので是非お薦めします。幸いなことに仕事は順調に推移し多くのお客様から満足して頂ける製品を開発してきたと自負しております。

しかし、工友会四国支部の仕事は殊の外てまどり活動が停滞気味で申し訳なく思っております。停滞の原因の一つは四国中央を分断している山地にあると思います。この峻険な山地は海岸線まで山がせまり今でも人の自由な往来を拒んでいます。将来はこの悪条件を得意な情報処理の分野を駆使して克服し活性化を図ろうと着々と構想を思い巡らせているところです。この構想が実を結んだ暁には支部大会開催も現実のものになってまいります。それまでは、四国各地に分散した卒業生を募り後進を育成し底辺拡大を図り四国支部を強固にしたいと思っています。

第７回埼玉県工業高等学校生徒研究発表会

高校生らしい発想と堂々とした態度に好感!!

「第七回埼玉県工業高等学校生徒研究発表会」が二月二十五日（火）、参加校十七校（発表校一六校、特別発表一校）を得て本学学友会館を会場にして開催された。

当発表会は埼玉県工業教育研究会が主催するもので、工業高等学校長会が共催、そして県産業教育振興会の後援を受けている。

卒業研究等研究成果発表を通して県内工業高校の『モノづくり教育』の振興・充実を目指すとともに、工業高校生徒の問題解決能力を伸長し、創造的な技術者を育て、将来の日本の工業界を背負って立つ人材に成長することを期待し、毎年続けられている。

昨年から本学が学友会館を会場として提供しており、今年で二回目。本学からは廣瀬治男教務部長が審査委員のひとりとして審査にあたり審査結果講評を行った。

発表された十六件はいずれ劣らぬ力作揃で、研究内容も多彩。プレゼンテーションの方法もＯＨＰ、スライド、ビデオなど複数の機器を駆使するのは当たり前、パソコンのディスプレイをプロジェクターを通してスクリーンに投影しながらの発表もいくつか見られた。プレゼンテーターの発表態度も最近の若者らしく物怖じすることなく堂々としており感銘を受けた。

審査結果は次の通り。

●最優秀　ビンカン選別ロボット『ビンカン君３号』の製作＝赤池正史君・針谷浩紀君（久喜工高）

●優秀　◎「地球にやさしい電気工事得・徳インターフェイス」の製作＝本澤修司君ほか四名（大宮工高）

◎秩父夜祭山車　下郷笠鉾１／10金属模型」＝若林梨絵君ほか七名（秩父農工）

◎「おしゃべり案内ロボットの製作」＝新井愛彦君・島崎勝君・根岸和博君（児玉白楊）

なお県内の工業高校生諸君には、来年度も数多くのご参加をお願いしたい。

上＝発表前、自分たちの作品の前で自信ありげに談笑する行田工業高校の諸君。右＝会場入り口に展示されたソーラーカー。

創立90周年記念 募金ご協力のお願い

本年、学校法人日本工業大学は学園創立九〇周年を迎え、式典、シンポジウム、学生参加のイベント、年史の発行等の検討準備に入っております。

また、大学キャンパスにおける記念事業として「スチューデントセンター」の建設を計画いたしました。それは、課外活動の拠点施設としてサウンドスタジオ、ミーティングルーム、多目的ホール、ギャラリー、厨房等をもつ、学生が交流の場として多目的で自由に使うことができる施設です。建築面積七四〇・三五平方メートル、延床面積一、四〇〇・九三平方メートル、総事業費は四億円です。

このたびの記念事業に関しまして、特段のご理解、募金活動に対するご協賛をいただきたく宜しくお願い申し上げます。

●募金要領

●募金の種別
○個人　一口　一万円
（一口以上）
○法人　一口　一〇万円
（一口以上）

●募金の期間
平成八年八月一日～
平成十年七月三十一日

●お問い合わせ先
募金委員会事務局
（日本工業大学経理課内）
○四八〇―三四―四一一一
内線二三二

スチューデントセンター 五月末に竣工の運び

ＯＢ諸氏、後援会、および関係業者など多くの方々からご支援を賜っている学園創立九十周年事業《スチューデントセンター》の建設工事が、順調に進展している。

このまま運べば、予定通り五月末には竣工にこぎつけられる見通し。フレッシュな感覚の新空間の誕生が待ち遠しい。

三月二十日現在の工事風景

人事異動

【定年退職（３月31日付）】
◆北後寿教授（建築学科）
◆高本研一教授（共通系）
◆渡部叡教授（電気電子工学科）
◆榆井武一助教授（建築学科）
◆市川益偉（教務部教務課参与）
◆川添恒次郎（総務部付）

【退職（３月31日付）】
◆岸陽一講師（材料試験研究センター）
◆バーバラ・ケア講師（共通系）
◆フレデリック・アンコヴィアック助手（情報工学科）

国外出張（３月）

◆星野坦之教授（システム工学科）／出張先＝タイ（２／23→３／４）／目的＝チェラロンコン大学にて技術指導
◆渡辺康夫教授（電気電子工学科）／出張先＝フランス（３／９→３／16）／目的＝サブミリ波基礎実験装置の整備を遅滞なく進めるための、主要構成装置の製作元における技術内容の予備的審査

TOWN & CAMPUS

宮代町は、全国でもゴミの分別・収集について、とても厳格かつ先進的な取り組みを行っているところです。

したがって、この春下宿、アパート等に一人住まいを始めた新入生諸君は、町のルールに則っとり、ゴミを処理するよう大いに協力してください。

ゴミの問題ばかりでなく、町の人口の一割以上がこの地に集まったことで、多かれ少なかれ生活環境の面においてトラブルを生じ、町からも様々な申し入れが本学にあることも事実です。それは騒音の問題であったり、タバコや空カンの投げ捨て等々、多種多様です。

昨今、若者のモラルが低下していることが指摘されています。豊かで、急激に発展する時代を背景にして、倫理感が変化することも間々あります

が、「やっていいこと」と「やって悪いこと」の基本は不変です。これらは家庭や小学校のしつけの問題として、日本社会の根幹にかかわる容易ならぬ事態に、将来なっていく予感がしてなりません。

大学構内においても全く同様ですが、社会のルールを守ることは、生きていく上での基本です。「自分一人くらいなら大丈夫だろう」という甘えの気持ちを捨て、それぞれが自覚を持って協力してください。

編集後記

▼すべてがリニューアルされるような気がしてくる桜の季節四月。また、全国から新入生が入学し、この日本工業大学のキャンパスで同じ時を共に過ごすことになりました。入学され、本学の一員になった新入生諸君、心から歓迎するとともに、「おめでとう」と言いたいとおもいます。とくに自宅を遠く離れて、全く新しい環境のもとで過ごすことになる学生は、先輩達もそうであったように、今は何もかもが新鮮で何もかもが不安な毎日ではないでしょうか。学長をはじめとする先生方のメッセージが、これからの充実した学生生活を送って行く指針になればと祈っています。

▼新四年生には、今年度の就職について特集しました。就職協定がいろいろの経緯から廃止された現在、本学の取り組みについて各学科の就職担当の先生方にご登場いただきました。

▼新年度を迎えて、新たな目標と決意をもってスタートしましょう。（F）